

1月18日、1学年を対象として、ソニー株式会社 元社長 中鉢良治先生（宮城県仙台第二高等学校卒）に「前へ、一步前へ」というテーマで講演をいただきました。この講演を実現するにあたって、慶應義塾大学の清水浩教授に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

講演会は中鉢先生のこれまでの人生の回顧から始まり、今後の科学技術のありかたや、社会のリーダーとなる人材のありかたについてまでお話しをさせていただきました。時にユーモアを交えたり、時に厳しくわれわれに現実を示したりするなど充実した講演でした。また、企業のトップを務めるのはどのようなかたなのかも直に感じ取ることのできる有意義な講演会となりました。



～中鉢先生が一高生に伝えたかったこと～

今後の科学技術のありかたについて

- ・性能だけを追い求めるのではなく、デザインなど使用者のニーズを抑える広い視野、及びそのように拡大していくための「成長戦略」が必要である。
- ・従来に束縛されることなく、新たなアイデアによって常に新たな価値を創造する「イノベーション」が必要である。

社会のリーダーとなる人材のありかたについて

- ・例えば自分にとって関係無いと思うような事にも積極的に関わってみるなど、「専門」を作らない多様性に長けた姿勢が必要である。また、誰も気がつかないようなところにまで目を向けてあげることのできるような「優しさ」が必要である。
- ・より高みを目指してのぼり続けるためには、多様性に長けた姿勢によって裾野を広げ、目標となる頂を高くし、同時にそれに伴って変化する環境に「順応する力」、及びその繰り返しのサイクルが必要である。
- ・様々な出会いを大切にすることが必要である。

～講演会を聞いて～

学術研究基礎の時間に行われる講演では、参加した生徒全員に感想・アンケートをとっています。今回の科学技術講演会についても同様に感想・アンケートをとりました。その感想文の中から一部を抜粋し記載します。抜粋の際に一部省略・修正をしていますが、ご了承ください。

私は、これまで培った感覚をもとにものを作ることも大事だが、物理的・化学的に優れたものをつくることも、これからは重要だと考えます。また私もイノベーションは必要であると思います。『模倣上手な日本』というレッテルを貼られつつありますが、もっと独創性に富んだものも作るべきだと思います。あと2年後は自分も大学受験ですが、やりたいことをするために、志望校合格に向けて今から努力を積み重ねていきたいです。

私は、科学技術とは理系であるから精神的なものとは関係無いと思っていたが、『科学者はやさしくなくてはならない』という話やチャームポイントの話から、そのような精神的なことが科学技術を背負って立つ中鉢先生の原動力となっているということが分かった。私も様々な出会いや色々な人からの言葉を大切にそれを原動力とし、可能性を伸ばしていきたいし、他の人の原動力となるような言葉をかけてあげたいと思う。

今回の講演で心に残った言葉が二つあります。一つは『科学者に挫折はつきもの』という言葉です。私も一高に入学してから何度か挫折しています。しかし、そういった挫折はつきもので、そこからどう成長していくかが大事という中鉢先生のお話を聞いて、元気づけられたとともにやる気がかなり増しました。もう一つは『同じ所で鍛え続けても何も進歩がない。場所を変え続け、より高みを目指してさらに鍛えるべき。』という言葉です。今まではとにかく鍛えればどうにかなるだろうと思ってやってきたのですが、そうではなく成長に合わせてステップアップしていくことが大切だと分かりました。

〈編集後記〉

今回の講演は、自分自身が普段からソニーの製品に馴染んでいたり、講演依頼のメールを作成して送信したり、将来科学者を目指したりしていることから、個人的に強い思い入れのあるものとなった。中鉢先生は講演で自己の二高生時代の経歴等について熱く語ってくれた。

中鉢先生はおそらく本校を訪れることで、科学に関する講演のみならず、よきライバルと見ていた一高生に現在に至るまでの人生のダイジェストを話したくなかったのではないだろうか。そのおかげで、私は今まで遠い存在に感じていた中鉢先生をたいへん身近に感じることができた。67回生それぞれがどの分野に進むとしても、中鉢先生の言葉をかみしめ、社会で活躍するリーダーとなるように邁進したい。

1年時の学術研究基礎の活動はこれで終了である。2年時に向けて一人ひとりこれまでの活動を振り返るとともに今後の目標を定めて、学年全員で学術研究基礎の活動を更に有意義なものにしていきたいと考える。1年間お疲れ様でした。

〈学術研究委員会委員長 午來義頭〉